

箕面育成園の今後のあり方を考える

高齢知的障害者の地域生活を支援し続けるために

2014年8月7日

(社福)大阪手をつなぐ育成会 竹内裕幸

理事
開発部長
支援センターつなぐの所長

箕面育成園の施設入所中に病気になったり骨折したらどうなるの

- 現在の医療支援人員等の体制
 - 配置医師2人(内1人は毎月 第2・4水曜日訪問指導しまた24時間医療対応が可能)
 - 看護師3人(専任1人、グループホーム支援兼務1人,短時間非常勤1人)
 - 緊急時、配置医師不在時⇒山口記念診療所(開院時のみ)
- 医療(的)ケア等実施体制
 - **医療的ケア実施体制なし**
 - **服薬管理と服薬支援有り**
 - **通院、受診付添い・主治医との連携支援有り**
 - **入院中、医療機関との連絡調整協力機能有り**
 - **医療機関との日常的連携、調整機能有り**
 - **医療的ケアを伴わない退院後の療養支援有り**
- 年2回の定期健康診断と配置医師による健康指導
- 管理栄養士による食事栄養健康管理
 - 刻み食、流動食、カロリーー管理
- 生活支援員によるADLやIADL(手段的日常生活動作)の一部支援

育成園の高齢入所利用者が病気したり骨折したら・・・

入院支援

医療機関との連携協力

- 入院・検査・手術・家族同意・付添い
- リハビリ・摂食回復
- ADL回復状況判断・歩行可能性(車いす)
- 育成園への復帰可能性の検討
- ケアマネや家族との相談(介護保険サービスの利用の可否)

育成園への復帰

- 自力歩行(車いす使用)
- 経口摂食
- 寝たきりでないこと
- 医療的ケアがないこと

退園

- 介護老人保健施設
- 指定介護老人福祉施設
- 介護療養型医療施設(医療区分2・3※)へ
- 在宅へ
- GHへ⇒×

これからの生活の場の想定と検討
育成園で生活し続けられるか

- 不調
- 食欲不振
- 嘔吐、体重減
- 血便、強度の便秘
- 転倒打撲・骨折
- 認知症的行動
- 発熱、咳
- 意識喪失
- てんかん発作
- 低Na
- 既往症亢進悪化

健康状態の把握
受診支援

※医療区分3 医師及び看護師による24時間体制での監視・管理を要する状態・中心静脈栄養・発熱を伴う場合の気管切開、気管内挿管のケア・・・

い～なGHの高齢利用者が病気したり骨折したら……

- 不調
- 食欲不振
- 嘔吐、体重減
- 血便、強度の便秘
- 転倒打撲・骨折
- 認知症的行動
- 発熱、咳
- 意識喪失
- てんかん発作
- 低Na
- 既往症亢進悪化

健康状態の把握
受診支援

入院支援
医療機関との連携協力

- 入院・検査・手術・家族同意・付添い
- 通院治療開始・リハビリ・摂食回復
- ADL回復状況判断・自力歩行可能性
- GHへの復帰可能性の検討
- 育成園等のショート利用の可否
- ケアマネや家族との相談(介護保険サービスの利用の可否)

• GHへの復帰

- 自力歩行(バリアフリー化後)
- 基本的な日常生活動作
- 日中活動への参加
- 経口摂食
- 寝たきりでないこと
- 医療的ケアがないこと
- 箕面育成園の入所の利用⇒×
- 退所
 - 介護老人保健施設
 - 指定介護老人福祉施設
 - 介護療養型医療施設(医療区分2・3※)へ
 - 在宅へ

これからの生活の場の想定と検討
どこでその人の希望に
添った生き方ができるか

「看取りという支援」

平成24年4月13日箕面育成園の職員に看取られ死去

- 家族と利用者本人が住み慣れた箕面育成園を望まれた
- 点滴以外の医療ケアがなかった(食事・移動介助、トイレ介助、入浴介助、メンタルケアは必要)⇒実際は口腔内の吸引や痰のふき取りがあった
- 24時間の在宅医療のサポートを確保した
- 提供できる食事の範囲であった(刻み食、流動食、摂食回復支援食まで)
- 経口摂取が可能であった
- 看護師、職員の協力、特別な勤務体制で対応できる範囲
- 家政婦の配置
- 看護師の良心と熱意
- 所長(園長)の決断
 - 短期間なら病院で終末期を過ごすという選択肢があった(望みを断る決断もあった)
 - 職員の不安とターミナルケアに関する経験度の違い、意見の食い違い、介護体制の難しさ
 - 周りの利用者の不安増大と若干の混乱、長期間に及んだ時の職員や看護師の疲労を予定した
 - ターミナルケアとしては素人である職員集団の不安凝縮の結果としての良心の結集があった

理解①大阪手をつなぐ育成会生活支援部会 参加者アンケートのまとめ 20140408

- 本人の家族としての気持ちで対応できる世話人（衣食住）
- 障害者が住み慣れた地域で生活し続けるためには、何より信頼できる支援者が不可欠
- 様々な厳しい条件の中にあっても、まず、障害者に対する温かい視線・心を持ち合わせている支援者を切に望む。そのことが基本にあつてこそ安心して終生生きて行けるのではないかと思う。
- 良き理解者・支援者、周りの人
- 家族の気持ちになって健康管理できる人
- 応援してくれる人（健康面・困った時の相談）
- 家族の気持ちになって世話してくれる人
- 親の思いをついでくれる人を作る
- 本人を理解してくれる人 本人のペースも。
- より多くの理解者、より多くの支援者
- 栄養士、人権を考える人
- 本人の個性や癖を理解して支援できる人や仕組み

理解②大阪手をつなぐ育成会生活支援部会 参加者アンケートのまとめ 20140408

- 就労をしている人の支援をし、また生活も支える人
- 意思決定支援があること・・・他の世話人さんやメンバーに説明してくれる人
- これからも出てくる制度などを本人にも分かるよう丁寧に説明し、利用できるように支援してくれる人
- 日中を支援する場所と人
- 外出を支援する所と人（楽しみが必要）
- 生活全体を支援する人
- 身上介護をする人
- 金銭管理をする人（年金で暮らしていけること）
- 病院に行ってくれる人
- 本人をより多くの人に知ってもらおう
- 町全体が福祉に理解
- 地域全体で福祉の町になるとよい
- 福祉の町づくり 地域の住民を巻き込んで地域全体で活動する取組

医療・健康大阪手をつなぐ育成会生活支援部会 参加者アンケートのまとめ 20140408

- 健康に関する本人のきめ細かなデータの管理と維持
- 急病的な場合及び体調不良の対応に障害をもつ人の受け入れシステムと病院
- ターミナルケア的な対応
- 医療
- 食事 予防（医療の）
- 食事とか、ホームの仲間と話し合っ
てメニューが決められるとよい。毎
回でなく月数回でも
- 食材は産地が記入されて分かるものであ
って欲しい
- 最期はターミナルでよし。（延命のため
の特に医療措置はいらない）
- 終末はターミナルで
- 健康管理（栄養、身体、疾病、気持ち、
医療）
- 医療との連携
- 死ぬまでホームで（ターミナル）

経済面 大阪手をつなぐ育成会生活支援部会 参加者アンケートのまとめ 20140408

- 経済面の安定（親と暮らしていた頃の生活水準を基本的に維持できる程度）
- 経済的安定・・・所得補償
- 今の年金だけでやっていけるのか不安（本人らしく生きるために）
- 障害者の最低賃金があってよし
- 経済的な安定（収入） 生活費＋お小遣い
- 衣食住の安定（心配しなくていい）
- 年金内での生活
- 経済的安定（お小遣いがあるということ）

意思決定支援など 大阪手をつなぐ育成会生活支援部会 参加者アンケートのまとめ 20140408

- 意思決定・・・どれだけ可能に？
- いろいろな支援（移動支援、日中支援とか）があるが、周りの人（本位の）計画になっちゃってしまい、本人が望んでいる支援になっていない？
- いつも世話人の言われる通りに行動しなくてもいいホームになったらよい。
- サービス管理責任者の器によって規制が多く、利用者が自分らしく生きにくい。
- 日中、9時から16時まで自宅で（ホームで）生活ができるようになったら良い。・・・今は、体調悪く早退してもその間はホームに入れない
- 余暇の選択肢、決定権がある
- 意思決定支援があること（こだわりなど・・・通訳してくれる人
- 自分らしく
- 権利擁護（本人の権利、金銭管理、本人を守る、意思決定）
- 会話のある生活・・・余暇を選ぶ権利があり 種類もたくさん
- 親が安心して死ねるために支援員に家族を求めるのは無理・・・親の気持ちを分かかって欲しい
- 子どもがいい一生だったと思って死ねるように

- 365日、**24時間**安心して生活できる支援体制
- 緊急時の対応が確保されていること（事故・病気）
- 世話人さんの引き継ぎ（今だけでなく）情報をきちんと伝える
- 世話人さんの高齢化（交代）で引き継ぎが大切
- 本人の現状だけでなく長く生活してきた情報を正しく引き継ぐためのきちっとしたシステム
- 働けなくなった時、次のステップへの支援
- ホームの近隣との交流。心のバックアップの支援必要⇒地域の中で生活しやすくなる
- ホームでの生活の中で困り感が出たときなど、退居を迫るのではなく、心をつないで支援してくれるような考え方と行動ができるバックアップ（組織）
- 日中活動の場、生活の活動の場、食の場、余暇、眠れる場、仕事の場、相談の場、発散の場、リフレッシュの場、くつろぎの場、仲間
- 親がすることをはっきりと持つ

- サテライト型グループホーム
- 本人は入所施設は絶対に嫌だと言ってる将来自宅を提供してグループホームのサテライト住居としたい
- 親が存命の間はそこに一緒に住みたい
- 家庭と同じ環境で
- グループホーム 地域の中で生活する場所
- 今の生活を変えることなく（住み慣れた場所）
- 楽しみ（余暇だけでなく）を持つ
- 出かけるところがある
- 利用者がみんなで和気あいあいた雰囲気ので話ができるように
- 会話のある生活（本人に言葉がなくても）
- 趣味を生かす
- 献立が作れる
- 衣料、家具などホームでの生活用品を本人の好みを捉えた支援を
- 気の合ったメンバー、仲間が必要
- 今、息子は企業の清掃に働きに行っていますが、今は親が食事を作っていますが、一人になって健康で働き続けるためにはグループホームに入るのか、自立して一人暮らしができるようになってくれることを願う。将来、話し合いができる人と暮らせたらいいいと思っています。

A. 理解 箕面市手をつなぐ親の会 学習会でのアンケート 20140706

- 誰の援助でも受け入れられること(柔軟であること)
- 現在40才の女性。GHで生活しています。週末には帰宅し、私共両親と3人で過ごしています。GH、家、また外でも時々アクシデント、ハプニングを起こしますが、本人の状態をご存知の方もおられ、それぞれに対処して頂きありがたいと思っています。子供のことをわかってもらい、周りの方に理解してもらつのに時間もかかる事があるので気をつけていきたいです。
- 地域の中で常に地域の方と関われる関係
- 地域の人に本人の事をよく知ってもらって、本人の言動を理解し、容認してほしい
- 入所の時などのことを考えると、家族(兄弟も含む)がいることが大切と思う。
- 本人のことを理解していただける人が必要。本人を残していく親の気持ちとして.....。
- 親身になって考えてくれる支援者
- 人とのつながり
- 理解者(対人関係が苦手なので特に)年齢と共に性格が頑固になっているので理解者が必要です。他人との接し方も苦手なので親亡き後の生活、どんな所でも生活できるようになってほしいものです。(親の願いです)
- 少しでも長く仲間と暮らしていけるよう人的支援が整ってくれたらと思う。今は事業所で仕事をしているが、会話が難しいので、やはり本人のことを理解しようとしてくれる人がほしい。
- 今後どのようなことがおきるか想像がつかない

B. 医療・健康 箕面市手をつなぐ親の会 学習会でのアンケート 20140706

- 医療体制が整っている(往診、入院)
- 健康であること
- 病気になったら直ぐに対応できるようにしてほしいです
- 24時間医療対応ができる場所(GH)
- 健康指導と栄養指導を行ってほしい
- 病院への通院、病気の状態を継続的にかかわってくれる人、場所
- 年に一度、健康診断は行なっているが、本人が受けられない大腸や婦人科の検査ができないので、どうすればいいのか考えている。特別に安心して受けられるような所がほしい。病院に行くと不安になり、怖がったり、暴れたりする。
- 医療・介護付き施設
- 住み慣れた場所での医療的ケアの充実
- 入院等を受け入れてくれる病院(行動面、声を出すなどの問題がある)
- 退院後、終末を看取ってくれる場所
- 本人の健康
- GHにいが、土・日は帰宅している。365日なれば医療的なことが心配である。
- 看取りまでしてくれる支援は心底ほしいと思う。親の元気な間は何でもするが、44歳になる子の老いまでつきあえないので、今から後のことが不安である。
- かかりつけの医者
- 医療機関をそなえた施設
- 本人が健康であり続けるための支援

C. 経済面 箕面市手をつなぐ親の会 学習会でのアンケート 20140706

- 後見人(年金、財産管理)
- 後見人でなくお金の世話をしてくれる人
- お金の管理をして年金内で日常生活が送れるよう見守りをしてくれる人、場所
- 金銭的支援(年金だけでは生活できない)
- 経済面(今は年金と自分の預金で何とか生活している)
- 入院のときの経済的裏付け
- 本人の見守り体制 すでに父親がいなくて母親のみ(慢性腎炎で17年目)姉が一人いるけれども経済的支援は受けられない。考えたら考えるほど、重く暗くなるので、その時はその時だと、開き直る気持ちも少しあります。本人のための貯えは少しですがあります。
- 年金の範囲で利用できる施設
- 入院等に対応できる預貯金
- 財政的に支援する

D. 意思決定支援 箕面市手をつなぐ親の会 学習会でのアンケート 20140706

- 重度障害者だけでなく軽度障害者が地域で施設やGHに入所せずに地域で生き生き生活するために現在どのような支援ができるか？
 - 余暇活動(映画、買物、遊園地などのお出かけ)
 - 生活指導支援(現在は家族と共住しているため、学ぶ機会が少ない)
 - コミュニケーション力の養成(自分の健康症状について人に説明できるよう訓練する)
 - 体力養成(歩く力、柔軟性、ストレッチ、定期的運動)
 - 生活力(読み、書き、計算力の継続的訓練 タブレット等の活用によりゲーム感覚で！！)
- 余暇の時間を計画し、ヘルパー利用等で見守ってくれる
- 子どもが楽しく生活できる交流の場
- 本人が生き生きと生活できる支援

E. 支援体制やシステム 箕面市手をつなぐ親の会 学習会でのアンケート 20140706

- GHの介護者の充実
- 支える人の勉強とか技術
- 親の代わりにできるよう支援していただきたい
- 本人が困ったときに直ぐに相談する人がそばについてくれるといい
- 24時間対応での支援、見守りをしてくれる場所
- 後見人が信頼できるか不安なので、後見人を安心して利用できるサービス
- 足が不自由で今は装具を履いています。GHに入っています。自転車で通っていますが、雨の日はバスで通いたい
そうですが。私たちは主人も私も高齢化に入っています。もう後はないです。雨の日、送っていただきたいと思います。
- 世話人さんを育成してほしい
- 介護職員の増員
- 365日、日中も夜も一日中生活ができる所
- ヘルパーさんの育成
- 後見人制度の利用というけれど、後見人はもつといろいろなことを親の代わりにやってほしい。
- 日中活動の場所
- 高齢になり作業所も定年になり本人の体力もなくなり、家はあってもそこで見てくれる人がいない場合、どの様にして
おけば良いか今考えているところです。 支援
- 姉は結婚し遠くに住んでいる、姪も遠くにいるし、彼女の事など殆ど何も考えていない様な状態です。
- 姉をたよりにしていますが、友達もなにもいないしどうすれば良いか、いつも心配していますが全然見通しがつきません。

E. 支援体制やシステム 箕面市手をつなぐ親の会 学習会でのアンケート 20140706

- 家族の協力(高齢のため何時まで出来るか不安)
- 姉妹に親がいなくなった場合 → 生前に皆で相談しておく
- 相談員とよく話し合っって色々な方法を教えていただく。
- 今子供51歳(ダウン症)グループホームに20年以上お世話になっていたが昨年位から調子悪く今年3月から実家に戻り、病状も良くなり7月にグループホーム退所し実家で落ち着き日中は月水金(い〜なゲーテン)火木(明光生活介護)バスの送迎ありで本人は楽しく生活している子供のため私達も健康で見守りたいと思う。
- 親亡き後の本人の終の棲家、医療的ケアも含む箕面市内での入所施設を希望
- 親亡き後、制度に左右されない安定した生活の場、日中活動も含めた生活の拠点となるもの。
- 終の棲家となりうる施設が必要だと思います。
- 自閉症等の障害特性に配慮したハード面をクリアした施設が欲しいです。(グループホームだと日中活動の場が無くなると居られなくなるので先行きが不安)
- 余暇活動の支援をもらえる施設
- 障害のサービスと介護のサービス両方を本人に合わせて選んで使うことができればいい。
- 親亡き後も安心安全で生活し続ける事が出来る支援体制、制度、人の善意だけを頼らずに安定していること
- 後見人の選任
- 計画相談の充実とネットワークの確立
- 家族の手を離れ生き続ける事ができる体制、制度
- 法人経営が安定していること
- 本人に関わってくれる人の数を増やす
- 中心となる人を育成する
- 優秀なスタッフ
- キメ細かな支援が出来る人材(量と質)と制度
- 親亡き後は、生活支援計画、コーディネート、それを実行できる体制
- 使い易く信頼出来る後見制度
- 制度利用の柔軟性

F. GHの形態とホームでの生活

箕面市手をつなぐ親の会 学習会でのアンケート 20140706

- 高齢化対応ができる施設(バリアフリー)、職員
- 親亡き後の安心できる支援施設ができるように
- 親亡き後、安心して生活できる場所がほしい
- 親も子も高齢になり親子で入所できるような施設
- GHに入っていないので両親が死んでから本人の住む場所
- 親が亡くなった後の生活ができる場所
- 数人や集団で生活するのが苦手な人のために一人で暮らすのを支援する体制を作ってほしいと思います。
- 行政のサポート、GHを作っていたきたい。どうしたら良いかまだはっきりとはわからない
- GHや育成園のような施設がまだ足りないと思います。
- 親がいなくなった後の生活の場所
- 親亡き後、一人になった時、現在入所しているホームでは何歳までいることができるか。
- サテライト型グループホーム(人の声、音とかに過敏で共同生活が難しい)
- グループホームで生活し続けること

地域で生活し続けるために.....by Takeuchi

- 健康な身体と生きがいの存在(普段からの取組みと生き続ける希望)
- 適切な健康管理体制(普段からの取組みによる安定した精神)
- 年齢と嗜好に応じた食事の提供(専門の栄養士の存在で楽しい食事)
- 安全で快適な住居(ちゃんと改修も整理整頓もしてあるから住み続けたい家)
- 必要に見合った安定収入の確保(年金アップで安心の生活・たくさんは要らん)
- 安心できる医療バックアップ体制(病気はしたくないけど、病気しても安心)
- 必要に応じて使える介護保険サービス(少しだけ使わせて)
- 可能な範囲でのターミナルケア(痛いのはいやや)
- 共に生きる仲間の存在(いつまでも友だち 障害福祉サービスだってまだまだ)
- 近くにいつもいる支援者や隣人(叱られることもあるけどな支えられてるなあ~)
- 信頼できる支援組織の存在(いつでも相談OK! やって 携帯で相談できるんや)
- 権利擁護の支援者の存在(通帳と印鑑OK!や。お小遣いはもっと欲しいけどな)
- 地域社会の理解と温かい協力
- 手をつなぐ育成会会員相互の共助体制

「箕面育成園の現状を踏まえた今後のあり方研究会」立ち上げます。

• 高齢化の現状を踏まえた今後の箕面育成園のあり方研究班の設置

- 平成27年1月20日の活動推進部会で中間報告会
- 平成27年11月8日研究報告会(20周年記念式典)
- 研究班構成
 - 育成園職員、グーテン職員
 - 大阪手をつなぐ育成会理事若しくは評議員
 - 外部研究者の招聘
 - い～な家族会代表
 - 大阪手をつなぐ育成会家族代表

- (設置趣旨)事業者の都合や思い、さらに現状で決めるのではなく、箕面育成園が終生生活できる施設として育成会の多くの家族の期待を込めて建設された経緯を尊重し、関係者や家族の意見の集約としての今後の方向性を研究する。その方向性のために育成会の事業所として何をなすべきかを検討することが求められる。小規模入所・定員20人以下のホームの設置検討を含む。

• 他府県の先進的取り組み調査や関連研究報告会などへの研究班員の派遣調査

平成26年度 事業・活動計画 支援センター い〜な【平成26年度の重点事項】

法人直営の新ホーム「いいね」の運営を通して、障がいの重い知的障がい者の地域生活支援の充実を図るとともに効率的、効果的な運営のあり方を検討します。さらに、いいねにおいて、ホームズい〜な24時間安心コールセンターの試験運用を始めます。

- ホーム専任栄養士配置によるホーム統一献立と利用者の食事栄養管理・世話人業務支援
- ホーム統一献立導入の拡大
 - 将来的にホーム専任栄養士の管理に基づくホームへの食材集配事業化へ
 - 障害者による実務運営を実現
- 世話人業務と支援職員業務の見直しと協力体制のあり方の検討
- 質の高い世話人の確保のための条件整備と世話人育成のあり方検討
- 地域携帯電話の運用の早急な改善「利用者支援に係る安心コールセンターの試験運用」の開始(い〜な事務機能の活用)
- ホーム増設に対応した管理スパンの再構築

平成26年度 事業・活動計画 支援センター い〜な【平成26年度の重点事項】

新ホームの設置やホームの統合などを通してい〜なのホーム定員増や再編を進めます。

- 世話人業務の見直しと生活支援員の配置
- 支援の専門性の確保
- バックアップ体制の見直し
- 支援業務の分業化と委託化推進
- 地域ゾーン別ブロック単位管理体制へ
- ホーム利用者の療養、退院後ケア、終末対応、医療ケア対応可能な職員の確保と配置
- ホームの増設(**5**ホーム増設計画)
- サテライト型ホームの開設
- **3**ブロック**3**管理者体制 **90**人以下の規模
- 療養、退院後ケア、終末対応、医療ケア対応可能なケアホームの設置検討